



TITLE:

<記事>4.水族館記録 2004年(1月-12月)

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>4.水族館記録 2004年(1月-12月). 瀬戸臨海実験所年報 2005, 18: 8-17

ISSUE DATE:

2005-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179041>

RIGHT:

4. 水族館記録 2004 年 (1 月 - 12 月)

1. 研究・教育

- 3 月 8 日 ユー・オク・ハン学振外国人特別研究員が、恒温装置付き水槽を第 3 水槽棟実験準備室にセットし実験を行った(3 月 31 日まで)。
- 3 月 13 日 兵庫県立姫路飾西高等学校長期宿泊体験学習 A 班(20 名)の見学を指導した。
- 3 月 17 日 公開臨海実習生(18 名)夜間見学を指導した。
- 3 月 18 日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅱ部学生(14 名)の夜間見学を指導した。
- 3 月 20 日 兵庫県立姫路飾西高等学校長期宿泊体験学習 B 班(20 名)の見学を指導した。
- 3 月 25 日 公開臨海実習生(7 名)の見学を指導した。
- 4 月 14 日 京都大学理学研究科生物学専攻学生(M1、52 名)の見学を指導した。
- 4 月 19 日 佐藤剛毅教務補佐員が、研究用のナメクジウオの蓄養を第 3 水槽棟の予備水槽(100ℓ)で開始した(翌年 3 月下旬まで)。
- 5 月 20 日 大阪教育大学教員養成課程実習生(15 名)の夜間見学を指導した。
- 6 月 13 日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生(15 名)の見学を指導した。
- 6 月 15 日 奈良教育大学教育学部臨海実習生(11 名)の見学を指導した。
- 7 月 11 日 磯の動物の系統分類学実習生(神戸市立須磨海浜水族園主催、19 名)の見学を指導した。
- 7 月 14 日 大阪市立大学理学部臨海実習生(15 名)の見学を指導した。
- 7 月 27 日 日米共同理科教育ネットワークプログラム実習生(中学・高校生、18 名)の夜間見学を指導した。
- 7 月 28 日 佐藤敦子院生が、ウミユリ蓄養のため第 3 水槽棟予備水槽を使用した。また 250ℓ アクリル水槽を研究棟小飼育室に設置した(9 月 18 日まで)。
- 7 月 29 日 滋賀県立膳所高等学校臨海実習生(生徒 15 名)の見学を指導した。
- 8 月 4 日 兵庫県立尼崎小田高等学校サイエンスリサーチ科臨海実習生(生徒 14 名)の見学を指導した。
- 8 月 17 日 京都教育大学教育学部臨海実習生(12 名)の見学を指導した。
- 8 月 29 日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ部学生(12 名)の見学を指導した。
- 9 月 2 日 大阪大学理学部生物学臨海実習生(21 名)の見学を指導した。
- 9 月 17 日 京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ部学生(8 名)の見学を指導した。
- 10 月 19 日 - 21 日 紀本電子工業(株)(白山義久教授との連携)が、海水中に溶解する炭酸ガスの測定装置と関連機器を第 3 水槽棟実験水槽室と実験観察準備室に設置し、実験を開始した。
- 11 月 14 日 放送大学京都学習センター公開講座臨海実習生(17 名)の見学を指導した。
- 12 月 7 日 - 21 日 西田宏記教授(大阪大学理学研究科生物科学専攻)研究用のマボヤを蓄養するため、水槽整備作業を行った。第 3 水槽棟大型実験水槽を利用し、循環海水を 8℃に冷却した。

2. 普及（報道関係は放送および掲載分のみ）

5月20日	白浜ビーチステーション(FMラジオ局)が、オオカワリギンチャク(302号水槽)について取材・放送した。
6月10日	和歌山県立田辺高等学校生物クラブ一行(生徒4名・教諭1名)を案内した。
7月26日	西牟婁科研・市教研理科部会一行(12名)を案内した。
8月18日	自然観察教室「海の生き物を見よう」一行(白浜町立児童館主催、30名)を案内した。
10月16日・17日	フジテレビが取材・撮影した。
12月6日	「水辺の環境教室」一行(白浜町生活環境課主催、白浜町内の小学生58名)をバックヤードを含めて案内した。
12月8日	日高新報(夕刊新聞)がクロガシラウミヘビを取材した。
12月9日	紀伊民報(夕刊新聞)が冬休み特別イベント「解説ツアー」について取材した(12月21日付け)。
12月11日	立命館宇治高校一行(生徒28名・教諭3名)を案内した。
12月15日	ラフォーレ会誌(旅行情報誌、3名)が取材した。
12月19日・26日	紀伊民報に冬休み特別イベント「解説ツアー」の広告を掲載した。
12月23日	朝日新聞和歌山版に冬休み特別イベント「解説ツアー」の広告を掲載した。
12月25日-1月10日	冬休み特別イベント「解説ツアー」を教員5名と技術職員2名とで実施した(1月1日-3日を除く)。バックヤードを案内する「裏側めぐり」(定員10名)と展示水槽を案内する「水槽めぐり」(定員20名)の二本立てで、午前と午後に2回(1回各30分)行った。

3. 機械・設備

1月13日-28日	No.2 揚水ポンプを分解・整備し、シャフトと消耗部品を取り換えた。
3月1日	第2水槽室観覧通路照明電球(32個)を57Wと60Wのものから5Wと14Wの省エネタイプのインバーター電球に交換した。
3月7日	エントランス・スペースにロッカーを2台(計12箱、無料)を設置した。
3月25日-26日	冷水循環ポンプ(第4水槽棟機械室)を分解・整備し、消耗部品を取り換えた。
4月13日	ボイラー(第2水槽棟機械室)と保温チラー(第4水槽棟機械室)の運転を停止し、各循環システムの加温を打ち切った(水温上昇に伴う冬運転の停止)。
6月6日	浄化槽放流ポンプ(第2水槽棟)を更新した。
6月15日-24日	温水循環ポンプ(第1水槽棟機械室)を分解・整備し、消耗部品を取り換えた。
6月27日	出口自動ドアを修理し、コントローラーと配線ユニットを取り換えた。
7月7日-9日	各循環システムの重力式濾過槽(第1・2・4水槽棟地下室に計15槽、130㎡)を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
7月12日-9月28日	チリングユニット(第1水槽棟機械室)と冷却チラー(第4水槽棟機械室)を夜間運転し、第3・4水槽棟各循環システムの水温を26-28℃に維持した。
7月12日	第2水槽棟第2循環システム熱交換器の三方弁の修理を行い、ポテンシ

	ョメーター(コイル)を取り換えた。
11 月 2 日・8 日	第 2・4 水槽棟地下室各循環系統の重力式濾過槽(計 9 槽)を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。
10 月 21 日	第 1 水槽棟浄化槽のプロワーが台風 23 号の高波により故障し、10 月 26 日に更新した。
11 月 9 日	第 1 水槽棟地下室の濾過槽逆洗バルブ 2 個を更新した。
11 月 16 日	ボイラーを分解・掃除し、ファンモーターのベアリングと温度調節器を更新した。
11 月 25 日	ボイラーを運転し、第 2 水槽棟各循環系統および 101 号水槽を 20-22℃に維持した(翌春まで)。さらに保温チラーを運転し、第 3・4 水槽棟各循環系統を 20-22℃に維持した(翌春まで)。
12 月 7 日	高圧受電設備精密点検のため停電とし、自家発電装置を運転した(7:30-9:30)。
12 月 16 日	冷凍庫 1 基が故障し、業者が修理した。
12 月 28 日	No.2 揚水ポンプが漏水したためゴムパッキンなどを更新した。

4. 収集・飼育・展示

1 月 23 日	サカサクラゲ用の予備水槽 2 槽(計 20ℓ、402 号水槽横に設置)を、サカサクラゲの死滅に伴い撤去した。本種は 1997 年 9 月にポリプ数十個体を越前松島水族館から送られたもので、その後成長したものを展示に利用していた。
1 月 31 日	ヒメツバメウオ(303 号水槽)が死亡した(全長 156.9 cm・体長 133.8 cm・湿重 122.0 g)。1999 年 8-9 月に白浜町袋湾で採集した 6 個体(瀬戸臨海実験所年報第 13 巻 32-35 参照)のうちの 1 尾で、これで残り 1 尾となった。その後、9 月 6 日に最後の個体が死亡した(全長 168.5 cm・体長 133.0 cm・湿重 122.0 g)。
2 月 1 日	タカアシガニ雌(予備水槽に 1 個体のみ収容。甲長 25.02 cm・甲幅 20.98 cm・湿重 5080 g、2003 年 2 月 14 日購入)が死亡したが、抱卵中だった。卵の色は褐色～濃赤色で最近産卵したもの。昨秋一時期、223 号水槽で雄 1 個体と同居させたことがあったが、その時に交尾したものと思われる。
2 月 9 日	アカクラゲ 1 個体(傘径約 10 cm)を江津良港内で採集し、202 号水槽のクラゲ用吊り水槽に展示した。
2 月 10 日	カミクラゲ 10 個体を白浜町瀬戸港内で採集し、2 月 12 日に 202 号水槽のクラゲ用吊り水槽でアカクラゲに代えて展示した(2 月 16 日まで)。本種の出現は、2 月 12 日・25 日に白浜町袋港内でも確認した。
2 月 10 日	チゴガニ(401 号水槽)が、本年になってもっとも活発な行動を示した。13 時ごろの観察では、32 個体出現し、うち 13 個体がウェイピングしていた。ちなみに、4 月 6 日に泥から掘り出したところ、雄 25 個体、雌 6 個体を確認した。
2 月 10 日	セミエビ 6 個体・ゾウリエビ 4 個体を、224 号水槽(イセエビ類と同居)から 211 号水槽へ移し、大型ヤドカリ類と同居させた。224 号水槽では、脱皮中にイセエビ類にたびたび捕食されたための処置である。
2 月 10 日	101 号水槽のアジ切身の給餌(週に一回、約 13 kg)を今後、消灯直後に行うことにした。中層を遊泳するヒラアジ類などによる摂食をなるべく

- く防ぎ、底生の軟骨魚類に餌を行き渡らせるための処置である。
- 2月23日 マボヤ100個体を長期飼育の実験用として岩手県の養殖業者から購入したが、梱包方法に欠陥があり多量の氷水に浸っていたため、2月26日にはほぼ全滅した。その後、3月25日と4月11日にも梱包方法を指示して別の業者から購入したが、指示が十分に伝わらず、同様の状況で2週間以内に全滅した。
- 3月24日 ムラサキハナギンチャク1個体(202号水槽)の体側部が膨らんで棲管からはみ出ており、触手が砂上に横たわっていた。砂から掘り出してみると、体側部が横に切れていて内容物が出ていた。水槽中に紛れ込んで成長していたオオケブカモドキ(甲幅2.5cm)によって切断されたものと考えられる。
- 4月2日 403号水槽(「岩礁」、水量24.4 m³)で、214号水槽(「棘皮動物 ウミユリ綱」、ウミシダ類の専用展示水槽で水量0.61 m³)から1月に移したオオウミシダ2個体とハナウミシダ5個体の生育状況がよく、イセエビ刺網からの採集時に折れた腕の先端が再生しているのが認められるようになった。
- 4月6日 401号水槽のチゴガニコーナーの泥を掘り返し、チゴガニ雄25個体・雌6個体を回収した(2003年9月22日に雄50個体を追加収容)。これらに、当日新規に田辺市内之浦で採集した雄60個体を加えて、再び収容・展示した。その後、5月12日の日中には40個体の雄がウェイピングしているのが観察された。
- 4月9日 クラゲ用吊り水槽(202号水槽)で、衰弱したアカクラゲ4個体に代えてミズクラゲ4個体(島島周辺で採集)を展示した。その後、5月24日にもミズクラゲ3個体(内之浦で採集)を追加展示した(7月30日まで)。
- 4月9日 サンゴイソギンチャク1個体の提供を、岩城弘司氏(白浜町綱不知港漁師)より受けた。エビ刺網にかかったもの。
- 4月10日 オキクラゲ4個体の提供を、大江富夫氏(白浜町瀬戸港漁師)より受けた。瀬戸港内で採集したとのこと。クラゲ用吊り水槽(202号水槽)で展示したが、4月16日にすべて死亡した。
- 4月15日 モンハナシャコ1個体の提供を、和出修氏(白浜町)より受けた。沖ノ島近くの水深38mから釣獲したもの。
- 4月21日 ムラサキハナギンチャク2個体を島島南浜沖で採集し、予備水槽に収容した。
- 4月26日 アンボイナ1個体(殻長10cm)を湯川勝二氏(南部町堺港漁師)から購入し、303号に区画を設けて展示した。3月7日にはアジの切り身を摂食したことが確認できた。
- 5月7日 カタクチイワシ約500尾(全長約6cm)を南浜の海水取水口タイドプールから採集し、229および403号水槽に収容した。
- 5月14日 クエ2尾(全長53cm、計4.8kg、1999年人工孵化魚)を近畿大学水産研究所白浜実験場から購入し、413号水槽に収容・展示した。
- 6月3日-7月30日 カゴカキダイ幼魚29尾(全長5-6.5cm)を岡本昭生氏(白浜町袋港漁師)より購入し、水槽内で自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除者として第2水槽棟の17個の水槽へ分配収容した。それまで一年間駆除者として収容していたカゴカキダイ24尾(全長10-14.5cm)は水槽から取り出し、第4水槽棟予備水槽へ移した。また、7月21日にソ

- ウシハギ 1 個体(全長 18 cm)を 217 号水槽に収容した。
- 6 月 6 日 長期飼育のオニイボナマコ(303 号水槽、2001 年 11 月 30 日湯川勝二氏(南部町堀港漁師)より購入)の姿が見えなくなった。衰弱して溶けたものと思われる。
- 6 月 7 日 サザナミヤッコの老成魚 1 個体を、椿水産(鮮魚商)から購入したが、6 月 13 日に死亡した(全長 39 cm・体長 32 cm・湿重 1650 g)。椿漁港地先の大敷網にかかったもの。これだけ大きなサザナミヤッコは当地では珍しい。
- 6 月 8 日 長期飼育のゴマフエダイ 1 個体(413 号水槽)が死亡した(全長 91.2 cm・体長 74.8 cm・湿重 14.2 kg)。解剖所見で卵巣に腫瘍がみつかった。採集年月日は確定できないが、付近の内湾で全長 10 cm ほどの幼魚を釣獲したもの。
- 6 月 8 日 ムラサキオカヤドカリ 9 個体を、第 1 水槽棟南西側の植え込みの中から採集した。さらに同所で 6 月 10 日に 1 個体、6 月 14 日にも 2 個体採集した。
- 6 月 11 日 マツカサウオ数尾(410-1 号水槽)が、直接手からオキアミを食べるようになった。オキアミをつまんで水面で揺り動かすと、寄ってきて食べる。
- 6 月 30 日 第 4 水槽室予備水槽で飼育中の魚類を適宜、展示水槽に分散収容した。これに伴い、不要となったカゴカキダイ 15 尾(全長 13-17 cm)・イシダイ 4 尾(全長 30-42 cm)を南浜から放流した。
- 7 月 18 日 ヘイケガニ 1 個体の提供を、佐藤義春氏(白浜町)より受けた。
- 7 月 23 日 ヘソアキクボガイ 30 個体を、ガラス面の汚れ防止のため 201-220 号水槽に 1-2 個体ずつ投入した。
- 7 月 27 日 オシヤレコシヨウダイ(当館初記録、412 号水槽)が死亡した(全長 48.2 cm・体長 39.6 cm・湿重 1010 g)。1999 年 4 月 22 日、椿水産(鮮魚商)より購入したもの(当時の全長約 45 cm)。
- 8 月 11 日 サメハダテナガダコ 1 個体(208 号水槽)の死亡に伴い、水槽の水を抜いて大掃除を行い、砂利の間で自然繁殖したニホンウミケムシを駆除した。掃除後、マダコ 1 個体(よし善商店より購入)を展示した。
- 8 月 14 日 アミメノコギリガザミ(213 号水槽)が死亡した(甲幅 19.6 cm・湿重 1980 g)。2003 年 8 月 30 日、中村和彦氏(由良町)より提供を受けたもの(当時の甲幅 19.9 cm・湿重 2050 g で一回も脱皮しなかった)。
- 8 月 17 日 ウミケムシ 5 個体(全長 4-6 cm)の提供を榎山嘉郎氏(白浜町)より受け、228-4 号水槽へ展示した。
- 8 月 18 日 スギ(全長約 120 cm、101 号水槽)がエイラクブカ(全長約 70 cm)を飲み込み、尾びれが口から見えていたが数時間後に吐き出した。19 日にも新しいエイラクブカを飲み込み、尾びれが見えていたが、その後吐き出しは観察されていない。
- 8 月 23 日 ノコギリモクの流れ藻 7 個体を白浜町袋漁港で採集し、402 号水槽に石にくくりつけて展示した。このノコギリモクは袋湾内では夏に生育する。
- 8 月 25 日 タコクラゲ 14 個体(傘径 2.5-4 cm)を白浜町袋漁港で採集し、202 号水槽のクラゲ用吊り水槽に展示した(12 月 21 日まで)。
- 8 月 29 日 孵化直後のアカウミガメ 1 頭(直甲長 38.6 mm・直甲幅 31.1 mm・湿重 15.6 g)が台風の高波で南浜に打ち上げられていたため収容した。9 月

- 9 月 3 日 9 日、303 号水槽に別の容器を吊るし、その中に収容して展示した。カワハギ幼魚 5 尾(全長 5-6 cm)を、水槽底で自然繁殖するニホンウミケムシの駆除者として第 2 水槽室の 5 つの水槽へ収容した。
- 9 月 4 日 アカオニガゼ 1 個体(殻径約 13 cm)の提供を岩城弘司氏(白浜町綱不知港漁師)より受けた。
- 9 月 6 日-11 月 10 日 ギンガメアジ・クロサギ・キチヌなど 11 種 31 尾の幼魚(白浜町安久川・高瀬川口、日置川町日置川口で釣獲)の提供を、荒賀忠一氏(白浜町)より 5 回にわたり受けた。
- 9 月 13・14 日 229 号水槽(「磯の生物」と 403 号水槽(「岩礁 黒潮の豊かな生物」)で展示動物の入れ替え作業(おもに幼魚に更新)を行い、並行して底砂の洗浄など大掃除を行った。
- 9 月 28 日-11 月 2 日 ギンガメアジ 3 尾・カスミアジ 4 尾・ロウニンアジ 5 尾(全長 38-63 cm)を、蓄養していた大型実験水槽から 1 尾ずつ釣り上げ、101 号水槽へ収容した。
- 9 月 30 日 ヤマトオサガニ 17 個体・オキシジミ 1 個体・トビハゼ 4 尾を内之浦干潟(田辺市)で採集し、402 号水槽へ追加展示した。また泥の補充・整地を行った。
- 10 月 12 日 メンコヒシガニ 1 個体の提供を、池内伸夫氏(大阪府枚方市)より受けた。8 月 13 日に印南町海岸で採集したもの。
- 10 月 13 日 ヘダイ 33 尾(412 号水槽で 49 尾飼育、全長 35-50 cm)を、成長に伴い水槽が混み合ってきたため、北浜へ放流した。これらのヘダイは幼魚時代に川口で釣りで採集し、404 号水槽(「内湾・川口の魚」)で一年間飼育後、412 号水槽に移したもの。
- 10 月 22 日 タカアシガニ(雄、223 号水槽に 1 個体のみ展示)の左脚が取れ、一本のみになったため、予備水槽へ移した(右側の脚は揃っている)。これに伴い、水槽の水抜き掃除をした。次に循環系統を暖水系に切り替えて、ニシキエビ 2 個体(どちらも雄、頭胸甲長 16.5 cm、15.2 cm・湿重 1330 g、1270 g)を 226 号水槽から移した。
- 10 月 25 日 クエ(雌、全長 81.0 cm・体長 77.6 cm・湿重 7.35 kg、予備水槽)が死亡した。2003 年 3 月 27 日に腹部のガス充満のせいで腹を上にして浮き上がったため、予備水槽で収容していた。一時、正常に底に横たわることができるようになったが、再び悪化し、長らく浮いたままだった。この間、餌はアジ切り身を棒に刺して与えていた。解剖の結果、卵巣が石化していた。
- 10 月 25 日-12 月 6 日 404-406、409-411 号水槽(魚類のみを展示している第 4 水槽室第 2 循環系統の大部分の水槽)を、4 回に分けて水抜き掃除を行った。またいくつかの水槽では、予備水槽との魚とで交換・更新を行った。
- 10 月 26 日 トウカムリ 1 個体(殻長 16 cm)の提供を、笠松敏氏(白浜町)より受けた。鴨居港沖水深 3m でエビ刺網にかかったもの。10 月 27 日に 303 号水槽に展示したが、半ば砂に埋まったまま動かず、11 月 16 日に動き始めて 12 月 10 日に初めてムラサキウニを捕食した。その後、砂の上を這いまわる索餌行動が見られると、ムラサキウニを与えている。
- 11 月 7 日 ブチススキペラ 1 個体(雄、全長約 27 cm)の提供を、新稲一仁氏(白浜町)より受けた。
- 10 月 9 日 チゴガニ 30 個体を内之浦干潟(田辺市)で採集し、402 号水槽へ追加展示した。

11 月 10 日	スギノハウミウシ亜目の一種 1 個体の提供を、真鍋學氏(白浜町)より受けた。江津良沖(田辺湾)水深 20m でドレッジにかかったもの。
11 月 24 日	403 号水槽で藍藻の一種が、衰弱しているイシサンゴ類の骨格上で繁殖するようになった。水流を当てると、はがれて水面に漂う。
11 月 28 日	オニノツノガニ 1 個体の提供を、岩城弘司氏(白浜町網不知港漁師)より受けた。
12 月 6 日	クロガシラウミヘビ 1 尾(全長 154.9 cm)を南部町堺漁港より搬入し、予備水槽で仔ヘビ 3 尾(平均全長 35.8 cm)を産んだ(うち 2 尾はまもなく死亡)。12 月 16 日、303 号水槽で親仔とも展示したが、12 月 31 日に仔ヘビが、1 月 1 日に親ヘビが死亡した。
12 月 22 日-31 日	白点病が第 4 水槽棟第 2 循環系統の魚類(とくにメイチダイ)に認められたため、硫酸銅 280g を 2 回投薬した。406 号水槽には硫酸銅の影響を受ける軟骨魚類がいるために、この間は循環系統から切り離し開放式とした。
12 月 29 日	ワモンダコ 1 個体(12 月 27 日、洞門の東側岩礁地帯で宮崎勝己講師が採集)を 208 号水槽へ展示した。元からいたマダコは、吊り水槽をセツトし、その中に収容した。

5. 生物観察メモ(水槽・野外)

1 月 10 日	よく太ったマルアジ 1 尾(226 号水槽、全長 30.0 cm・尾叉長 28.0 cm・湿重 525 g)が死亡したので解剖したところ、腹腔内に脂肪が充満していた。卵巣は未発達だった。
1 月 27 日	流れ藻(ヤツマタモク・オオバモク)4 個体を、白浜町江津良港内で 402 号水槽展示用に採集したが、どれも生きているヒバリガイモドキの殻に付着していた。海藻の付着したヒバリガイモドキが、海藻の生長に伴って浮力に耐えられなくなり、足糸がちぎれて漂ったものと思われる。
3 月 8 日	マゴンドウ 1 頭(雌、体長約 3.5m)が白良浜に漂着した。計測後、白浜町役場の職員によって田尻浜に埋められた。
3 月 15 日	多数のオワンクラゲやクシクラゲ類が北浜の船揚場周辺に漂着した。
4 月 21 日	多数のアカクラゲ・ミズクラゲ・オキクラゲが島島周辺で見られた。
4 月 25 日	サケガシラ 1 個体(全長 165 cm・湿重 4.5 kg、北浜沖 100m で漂泳)を南淳氏(白浜町)が採集し、実験所に提供した。
5 月 6 日	ミゾレヌマエビ(富田川の富田橋付近)に今季初めて抱卵個体が混獲されるようになった。本種はヨウジウオ類の餌用に、ほぼ毎週、富田橋周辺で採集している。
5 月 11 日-10 月 6 日	シチセンスズメダイの同一ペア(雄：全長 16 cm・雌：全長 17 cm、410-2・3 号水槽)の産卵が、去年に引き続き水槽壁(エポキシ樹脂塗装)のほぼ同じ場所で繰り返し行われた。この間に 18 回の産卵が行われ、孵化に要した平均日数は 5.5 日だった。
6 月 6 日	ソデイカの卵塊が白浜町藤島の砂浜に打ち上がっていたため、一部を採取した。
6 月 13 日	オニオコゼ 5 尾(305 号水槽)のうち、腹部が膨満した 1 尾に腹部のスマートな 3 尾が群がっていた。産卵を控えた雌に雄が集まった行動であると思われる。

- 6月17日 204号水槽で、オオナガレカンザシの棲管にヤクシマダカラが覆いかぶさっていたため貝をはがしてみた。すると、ヤクシマダカラは棲管中に吻を挿入し、オオナガレカンザシの本体をほとんど食い尽くしていた。以前にもヤクシマダカラを収容後にオオナガレカンザシ数個体が死滅したことがあったが、その原因はこの貝の捕食によるものと思われる。ヤクシマダカラは、壁面におけるイソギンチャクの繁殖を抑制する目的で収容していた。7月14日には、取り残していたヤクシマダカラ1個体がホンケヤリの棲管に取り付いていたが、棲管の入口を閉じたままで本体は食われていなかった。ケヤリの仲間は棲管が軟質で入口を閉じることができるため、ヤクシマダカラなどから捕食されにくいのかも知れない。
- 6月30日 22時ごろ、多数のニシキウズの稚貝が402号水槽のガラス面を這っているのを目撃した。昼間は海藻などに隠れていて気付かなかった。今春、水槽内で自然繁殖したものと思われる。
- 7月1日-11月18日 ロウニンアジ(101号水槽、成魚10個体、全長約70-90cm)が、この期間に少なくとも11回産卵したものと思われる。細かい粒子による海水の白濁が半日から一日続き、この間には毎回、体色が黒っぽく変色した雄らしき2-4個体が、体色の変化のない雌らしき個体を追尾する行動が見られた。プランクトンネットで粒子を集めて検鏡したところ、直径約0.67mmの受精卵を確認した。
- 7月10日 オオアカヒトデ(216号水槽、5個体収容)の放精・放卵を15時ごろ目撃した。水槽は薄茶色に濁った。
- 7月14日 南浜にアカウミガメの上陸足跡があった。産卵に至ったかどうかは不明。
- 7月14日 ニセクロナマコ1個体(403号水槽)が、11時ごろ、頭部を持ち上げ放卵していた。
- 7月23日 クシハダミドリイシの大きい群体(直径1-2m程度)が、円月島西側斜面水深5-8mに多数生息しているのを確認した。過去20年ほど毎夏その付近で採集しているが、ミドリイシ類のこれほど大きい群体を確認したのは初めてである。
- 8月3日・25日 アミメウツボ計6尾を岡本昭生氏(白浜町袋港漁師)から購入したが、本種は岩礁ではなくて泥場に生息するらしい。袋湾の中央部でカニ簗で捕獲したもの。
- 8月9日 ソウシハギ(217号水槽へイソギンチャク駆除者として7月21日に収容、全長18cm)が、展示動物のカンガゼとアオスジガンガゼの棘先をかじり取ったため、ガンガゼ類の棘が全体として短くなってしまった。また、ソウシハギの収容期間中、ガンガゼ類は棘をせわしなく振り動かしている様子だった。このため、このソウシハギは予備水槽へ移した。
- 8月10日 ハリセンボン(全長15-20cm)が番所崎周辺の岩礁地帯で多数見られた。中でも、番所崎先端の磯、ビシャゴの岩棚(水深6m)では12尾が群がっていた。
- 8月18日 タコクラゲが袋湾で今季初めて出現した(傘径2cm程度)との情報があるが、岡本昭生氏(白浜町袋港漁師)より寄せられた。
- 8月26日 ハナウミシダ3個体(403号水槽「岩礁 黒潮の豊かな生物」)が、同居展示しているハタタテダイ3尾(全長約10cm)にかじられて腕が短

- 8 月 26 日 なくなった。オオウミシダに変化はなかった。
オガワマッコウと思われるクジラが番所崎に漂着・死亡していた(全長 2.3m)。和歌山県水産課の依頼により、DNA 検査のためのサンプルを採取した。
- 9 月 22 日 南浜におけるアカウミガメの卵調査を白浜町企画観光課職員と共に
行った。7 月末に上陸産卵が確認された場所を掘り起こし 48 個の卵
を確認したが、すべて発生初期で死亡していた。
- 10 月 16 日 マダラトラギス 1 尾(全長約 18 cm、303 号水槽)が、水槽の中に設け
られた仕切り(中にアンボイナ 1 個体(殻長 10 cm)を収容)の中に砂を
掘って侵入していたので、元にもどしたが約 5 分後に死亡した。ア
ンボイナに刺されたものと思われる。この死亡したマダラトラギス
を投入してみたところ、アンボイナは数分後には丸呑みにしてしま
った。
- 11 月 2 日 カイウミヒドラ 1 群体(228-5 号水槽、流水式)の小さなポリプが、シ
ワホラダマシの貝殻上で多数出芽しているを確認した。

6. その他

- 1 月 21 日 餌料費のコストダウンと簡便性・衛生性を目的として、2003 年 5 月
20 日より養殖用ペレット餌料(大きさ別に 4 種類と植物性ペレット 1
種類)による給餌を開始し、従来の生餌(オキアミ・アミ・アジ・塩
ワカメ)の給餌量を大幅に減らしたが、約半年が経過して給餌量が安
定したので、ペレット導入前と後の餌料費の算出を行った。その結
果、ペレット導入前(2003 年 4 月時点)は 2770.5 円/日であったの
が、導入後(2004 年 1 月時点)は 1753.9 円/日となり、36.7%のコス
トダウンに成功した。
- 1 月 28 日 リーフレットの増刷を前に改正点を検討し、3 月 17 日に印刷業者に
発注した。
- 2 月 13 日 田名瀬英朋助手が、日本動物園水族館協会・第 32 回飼育技師資格認定
試験(会場：アドベンチャーワールド)に試験官として立ち会った。
- 3 月 12 日 稲次祐二・土井啓行両氏(下関市立しものせき水族館魚類展示課)を
案内した。
- 4 月 1 日 国立大学法人化に伴う職員の勤務時間改定を受け、水族館の開館時
間を従来より 30 分延長して 9:00-17:30(入場は 17:00 まで)とした。
- 5 月 20 日 田名瀬英朋助手・興田喜久男技術職員は、日本動物園水族館協会か
ら有功賞を受賞した。
- 5 月 28 日 太田満・山本泰司技術職員が京都大学総合博物館に出張し、京都大
学総合博物館平成 16 年春季企画展「森と里と海のつながり 京大フ
ィールド研の挑戦」(6 月 2 日-8 月 29 日)に出展する水槽展示の作業
を行った。水槽のテーマは「南紀沿岸の多様な動物たち」で、展示
したのは、ベニヒモイソギンチャク・オニイソメ・ヘソアキクボガ
イ・イソスジエビ・ソメンヤドカリ・ヤマトホンヤドカリ・ニセク
ロナマコ・ギンユゴイ・オヤビッチャ・カゴカキダイ・クモハゼの
計 11 種で、それぞれ 1-10 個体を収容した。水槽は舞鶴水産実験所
の外部濾過式 60 cm 水槽 1 個(冷却装置付き)を借用した。期間中の動
物の世話は土居内龍院生(総合博物館)に依頼した。展示動物の死亡

- のため、期間中に 3 度の補充を行った。 8 月 30 日に、同技術職員が撤収作業を行った。
- 6 月 21 日 台風 6 号による暴風雨波浪警報発令のため、朝から臨時閉館とした。職員は自宅待機。
- 6 月 23 日 太田満・山本泰司技術職員が、日本動物園水族館協会第 70 回近畿ブロック飼育係研修会(串本海中公園センター)に出席した。
- 8 月 28-30 日 台風 16 号の高波により県道が通行不能になるため、16 時に閉館とした。
- 8 月 30 日 取水導水管の保護コンクリートが台風 16 号の波浪により一部剥離し、導水管が露出した。
- 8 月 31 日 台風 16 号による高波で南側道路に浜砂が打ち上がったため、除去作業を行った。また水族館からの排水口も埋まったため掘り出し作業を行った。
- 9 月 2 日 清涼飲料水の自動販売機が、水族館入口前に設置された。
- 9 月 5 日 震度 4 の地震が夜 2 回あったが、被害はなかった。
- 9 月 7 日 台風 18 号の影響で 15 時に閉館した。翌日、砂で埋まった南浜排水口の掘り出し作業を行った。
- 9 月 30 日 台風 21 号の高波で埋まった南浜排水口の掘り出し作業を行った。
- 10 月 20 日 台風 23 号接近のため 12 時に閉館とした。南浜道路に大量の浜砂が打ち上がった(最大 50 cm)。翌日、町の協力により重機が入って砂の除去作業が行われた。また、南浜排水口の掘り出しと第 1 水槽棟ドライエリアの砂出し作業を行った。
- 11 月 10 日・12 日 田名瀬英朋助手が、日本動物園水族館協会第 49 回水族館技術者研究会(伊豆三津シーパラダイス)に出席した。
- 11 月 26 日 山本泰司技術職員が京都大学第 29 回技術職員研修に出席し、「京都大学水族館の概要と収集・飼育・展示の工夫」のタイトルで発表を行った。